

令和4年度 第1回 帯広市都市計画審議会 議事概要

日 時：令和4年7月25日（月曜日）13時30分～14時30分
場 所：ソネビル 6階講習会室
出席委員：岩本会長、國枝副会長、石井委員、大林委員、河西委員、神田委員、紺谷委員、
椎名委員、関口委員、長沢委員、西本委員、前田委員、紅葉委員、矢野委員、吉田委員
（以上15名）
事務局：和田都市環境部長、篠原都市建築室長、
（都市政策課）岡田都市政策課長、中島都市計画係長、堀田主任補、三浦主任補
傍聴者等：報道関係者 2名
配布資料：会議次第、委員名簿、座席表、議題の概要（資料1）、大空地区地区別構想の策定について（資料2）

【次第】

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長挨拶
- 4 会長挨拶
- 5 議 題
大空地区地区別構想の策定について（専門部会の設置）
- 6 閉 会

【議事概要】

5 議題

○議題 大空地区地区別構想の策定について（専門部会の設置）

－事務局より資料1～2に基づいて説明－

○委員からの意見、質問等

（委員）

都市計画マスタープラン（以下、「都市マス」という。）の基本理念と分野別方針の継承は、具体的にどのようなイメージなのか。

（事務局）

大空地区は都市マスで郊外住宅地エリアに位置づけられており、郊外部に位置した閑静な住宅地を主体とした、良好な住環境の維持・保全が求められているエリアとなっている。

このことを踏まえ、地域の方々が安心して暮らせるよう、主に戸建て住宅が立地し静かな住宅地が形成される地区であったり、幹線道路沿道は住宅地に配慮しながら、必要に応じて生活利便施設の立地等を誘導していくなどの考えである。

（委員）

様々な分野の方が集まり、具体的に専門的な議論を深める際に、少子高齢化は大空地区地区別構想のポイントになると思った。高齢者の困りごと等の意見もくみ取って、地域住民の合意形成もあったとのことで、そういう詳しい方との連携も必要だと思った。

構想策定を短い期間で行うので、自分も何か役に立てることがあれば協力したい。

(委員)

この時期になぜ、地区別構想を策定することになったのか。

(事務局)

大空地区の造成から 55 年が経過し、地区内の公共施設等の移り変わりや大空学園義務教育学校の建設等、地区内の環境が大きく変わってきている。

大空地区は、こうした大きな変化がある中、独立した郊外の住宅地という特性を持っているため、これを契機とし地区全体を見直し、20 年後のあるべき姿を土地利用等で誘導していければと考え、地区別構想を策定することとしたもの。

(委員)

9 千人いた地域の人口が約半減し、少しずつではあるが、また増えてきている状況で、大空学園の開校も含めて、地域の活性化をどう作っていくかが今の時期とても大切だと思う。

(委員)

帯広市の第七期帯広市総合計画（以下、「七期総」という。）と、都市マスの関連性について伺いたい。

(事務局)

都市マスは、七期総の分野別計画に位置づけられている。

また、都市マスは北海道が定める「帯広圏都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して策定している。

(委員)

帯広市のコンパクトシティについての考え方について伺いたい。将来、人口減少の進行が見えている中で、コンパクトシティは非常に大事だと思う。大空地区の今後を見据えてということなので、この考え方を確認したい。

また、大空地区では若い世代が家を建てているが、年代別の人口や空き家率を把握しているか。

(事務局)

帯広市のコンパクトシティの考え方は、集約するというのではなく、今ある市街地を今後どのように継続していくかということを考えている。

既に市街化が進んでいる都市部及び大空地区については、今後も有効に土地利用を図っていきたいと考えている。

年代別人口について、年少人口は、平成 27 年が 503 人、令和 2 年が 549 人、生産年齢人口は、平成 27 年が 2086 人、令和 2 年は 2049 人、老年人口は、平成 27 年が 1865 人、令和 2 年が 1884 人となっている。

空き家については、市営住宅も含めた共同住宅には、公的住宅だったものが民間に移管されている住宅もあり、これらについては市で把握できていないが、戸建て住宅については、令和 2 年度で 20 数件だったが、令和 3 年度は若干増えている状況にある。

(委員)

今後議論していくうえで詳細な数字が知りたいため、出来る範囲で良いので調べてほしい。

(会長)

他に意見、質問等はないか。

(意見等なし)

(会長)

それでは、専門部会の設置及び小林英嗣氏と窪田さと子氏を専門部会委員として委嘱し、検討することとしてよろしいか。

(異議なし)

(会長)

次に、審議会からの委員として、大空地区は、市街地から離れ一つのまちが形成されている地区であるため、地域経済の視点からの意見が必要であり、商工業及び地域経済に関する知見が重要と考え、都市マス策定に引き続き河西委員にお願いしたい。

建築の規制や建物の防火など、建築に関する専門的な知識が重要と考え神田委員に、そして、地区内の道路や公園、緑地等の考え方についてインフラ施設に関する専門技術の知見が重要と考え紅葉委員に、それぞれお願いしたい。3名の方々よろしいか。

(異議なし)

(会長)

部会長として小林英嗣氏を指名したい。

(異議なし)

(会長)

それでは本件に関しては終了する。

6 閉会

(会長)

全体を通して意見、質問はないか。

(委員)

20年後の大空地区の姿ということで、私も大空には将来的な夢を持っているので、子どもたちが希望を持てるようなプランを作ってもらいたい。

防災の観点からも、大空地区は非常に標高的に高いところにあるので、意外と水害が少ない。利便施設について、大空地区内には商店が少ないが、商業地区が割と近くにあり、購買に関してはそれほど遠くに行かなくてもある。大空地区の中央には大きい公園があり、何より畜大をはじめ、高校などが近くにあるため、学園研究都市の様な方向の構想も視野にいれたり、企業誘致等も含めて、大空地区の将来を夢のあるものにしてほしい。

専門委員の方には、ぜひそのような視点から、希望の持てる将来像を描いてほしい。

(委員)

地区別構想について、帯広市の他の地区で作られたものはあるのか。

(事務局)

現在の都市マスにおいては、地区別構想を策定している地区はない。

大空地区を除くその他の地区については、連続した市街地の中に形成されていることから、都市マスを基本に、将来都市構造や分野別方針に基づき合理的な土地利用が図られていくものと考えているが、活発な土地利用の動きが見受けられる場合や合理的な土地利用が求められる場合については、検討していく必要があると考えている。

(会長)

ちょうど大空地区は、色々なタイミングが重なっている時だと思う。

人口減少の側面があるが、若い世代が居住し始めてきているというタイミング、そして当

初計画の造成時から、かなり土地利用が変わっている。そういう意味では今の状況に合わせたものが必要であろうと、加えて小中学校の統合などがあり、そういう意味でもこのタイミングというのは非常に重要と考えている。

また、ひとつのコンパクトな地区であるため、将来に向けて一つ計画を考えることに非常に夢があるという話があったが、そういう可能性のある所なのではないかと考えている。

(会長)

その他、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

次回審議会について、専門部会での審議内容を報告するため、来年2月下旬頃に開催を予定している。

専門部会における審議の経過は、委員に随時お知らせしていく。

(会長)

以上をもって、本日の会議を閉会する。